

ブドウ花冠取り器による、さび果の軽減効果

ブドウの花冠が開花後の子房に長く付着した場合、灰色かび病菌の二次感染源やさび果の原因になることが問題になっています。そこで、市販モデルの「ブドウ花冠取り器」を用いると、花かすが処理できるとともに、さび果軽減効果があることを明らかにしました。

☆ 技術の概要

1. 満開期のジベレリン処理時に、ブドウ花冠取り器(図1)のブラシにより、花冠が花穂から容易にこすり落とされます(図2A)。ジベレリン溶液に花穂を浸漬しただけの対照区では、処理3日後の花冠の落下率は36%(図2B)ですが、花冠取り器は87%(図2C)落とすことができます。
2. 対照区やさび果「甚」の発生率は約14%(図2D)で、満開期に花冠を全て除去すると0.5%です。花冠取り器を使用したときのさび果程度「甚」の発生率は3.7%(図2E)であるから、花冠取り器の利用によって「甚」の発生率が減少することがわかりました。

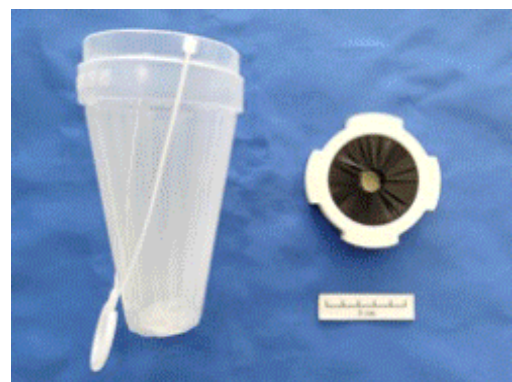


図1、右がブラシ部。

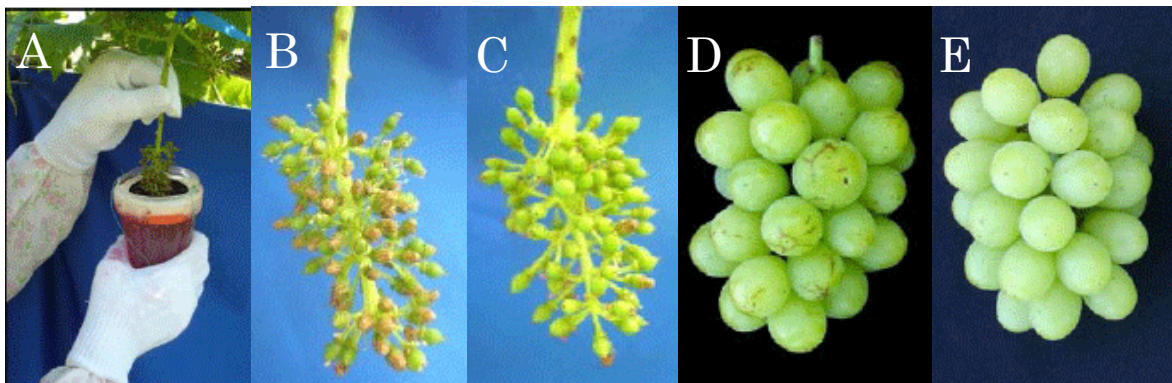


図2 花冠取り器による、さび果発生率軽減効果(開花後の花冠が極めて離脱しにくく、果面にさび果が生じやすい「サンヴェルデ」での試験) A: 花冠取り器の使用例、B: 対照のジベレリン処理3日後の花穂、C: 花冠取り器を通した処理3日後の花穂、D: 対照区やさび果発生状況、E: 花冠取り器を通した収穫果

☆ 活用面での留意点

1. 「ルビーロマン」のようにさび果を起因とした裂果が問題になる品種では、裂果防止にも活用できます。
2. ブラシ部はカップから取り外せるため(図1)、ブラシ部単体でも花かす落としに利用できます。
3. 市販品は平成26年からツミヤマ株式会社より販売されています。
4. 詳細については、農研機構 果樹研究所(電話:029-838-6454)にお問合せください。

(果樹研究所ブドウ・カキ研究領域・上席研究員 薬師寺 博)